

議事要旨(4) 無形資産に係る会計基準の検討

冒頭、新井副委員長（専門委員長）より無形資産に関する会計基準の検討について、開発費の資産計上に関しては、現行の取扱いを当面維持することとしてはどうかというのが事務局提案となっており、この点を前提としたうえで包括的な無形資産に関する会計基準を開発するか、個別論点のみに対応したものとするのか、もしくは現行のままに止めるのか、今後審議を行っていきたいと考えているが、検討再開にあたって、包括的な無形資産の会計基準の開発に関するこれまでの審議経過をとりまとめた説明を行う旨、及び、開発費に関して、IASB のアジェンダ・コンサルテーションに対して ASBJ からは適用後レビューの対象とすることを提案するコメントレターを提出しているが、今年 3 月に会計基準設定主体国際フォーラム (IFASS) において、ASBJ から IFRS における開発費に関する調査及び適用後レビューの必要性について発表を行っているので、その内容についても報告する旨の説明が行われた。続いて紀太専門研究員より、無形資産の会計基準の開発に関するこれまでの審議の状況に関して、審議事項(4)に基づいて具体的な説明が行われた。続いて、IFASS で出席した加藤副委員長より ASBJ からの報告内容等について説明が行われた。

委員等からの主な意見は以下のとおりである。

ある委員より、無形資産の包括的な会計基準を開発することについての緊急性はどの程度あるのかというという質問があった。これに対して、事務局から、緊急性については色々な見方があると考えられるが、まずは、個別のテーマ毎に議論を進め、その上で包括的な会計基準を開発するかどうかなどの判断を行いたいと考えている旨の説明があった。

別の委員より、IFRS における開発費に関する調査について、同様の調査はこれまで ASBJ で行っていたのかという質問があった。これに対して、事務局から、調査は今回が初めてではないが、今回の調査は、アジェンダ・コンサルテーションのコメントにおいて、ASBJ が提案したことを実現するためのひとつの方策であると考えている点で前回までとは異なるとの説明があった。

また、別の委員より、無形資産に関する包括的な基準がないことが常態であるという状況に慣れているところがあるが、実務においては基準の明確化を図るべきではないかという議論がもう少しあってもいいのではないかと考えている。抽象論では議論がなかなか進まないなので、具体的に必要性がありそうな論点から検討していくのもひとつの方法ではないか等の意見があった。

あるオブザーバーより、開発費の資産計上以外の論点については、新たに会計基準を開発する方向で検討してはどうか、また、開発費に関する調査については、米国や英国の学術的研究があるとのことだが、それらの内容についても、報告してほしいという意見があった。これについて、事務局から、当該学術的研究については調査を行ってみたいとの説明があった。

以 上